

養蜂の現状と対策

1 農薬による被害への対応について

- 国内で、平成20年から21年にかけてミツバチが減少する事例が発生
- 国は農薬（ネオニコチノイド系農薬を含む）が原因と考えられる蜜蜂の被害状況を調査。国内での被害件数は、年間20～30件程度発生。

※ 農薬が原因と疑われる蜜蜂被害件数（農林水産省「養蜂をめぐる情勢」より）

H29	H30	R1	R2	R3	R4
33	21	43	29	15	20

- 県では、蜜蜂飼育の届出をしている蜜蜂飼育者に対し、各JA等から収集した地域の水田等で農薬を散布する作物毎の期間等に関する情報を提供し、農薬による蜜蜂被害の防止に努めている。

2 趣味養蜂家の蜜蜂飼育届について

- 近年、蜜蜂を飼育することがブームとなり、趣味で蜜蜂を飼養する人が増えており、養蜂業者との競合や蜜蜂の伝染病の発生などが懸念されている。
- 国では、飼育場所をめぐるトラブルの増加を踏まえ、養蜂振興法の運用を一部改正し、反復継続して蜜蜂を飼育する者は、趣味であっても飼育届が必要とした。
- このため県では、蜜蜂の飼育を始める人に対して、県のホームページに掲載し、蜜蜂飼育届の提出方法や、その様式を示すなど、届出について啓発している。

3 福岡県養蜂組合への支援について

- 県では、養蜂組合が実施する、養蜂家による適正な蜂群管理、蜜源植物の作付け拡大、蜜蜂の衛生対策等の取組みに対し支援を行っている。
- 具体的には、レンゲ種子代やダニ駆除剤の購入経費、研修会や会議の開催経費を助成しており、令和6年度も実施予定。